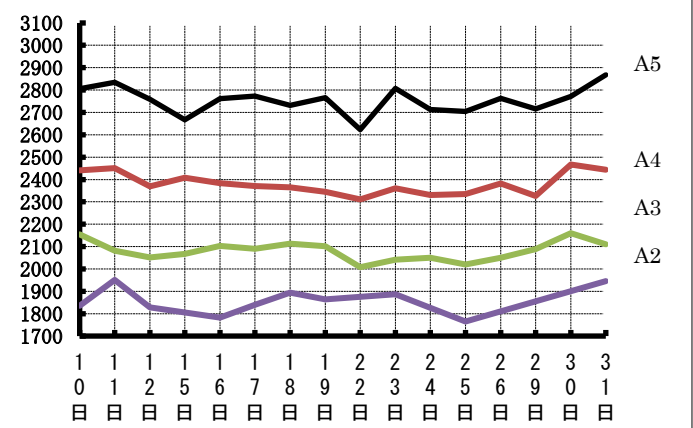


大動物事業部

<1月の相場動向>

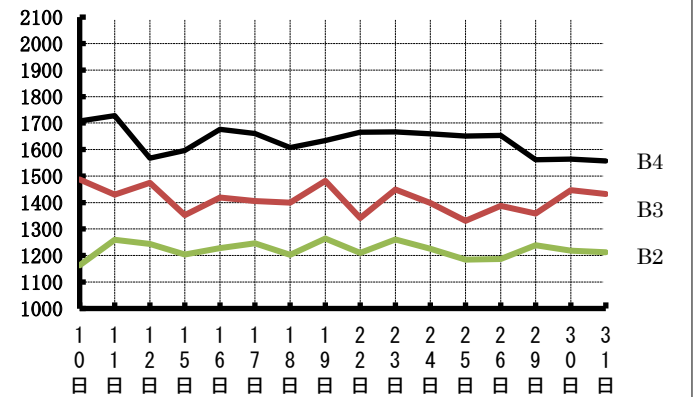
和牛去勢A5が前月比182円安の2,760円、A4が同297円安の2,379円、A3が同357円安の2,073円、A2が同262円安の1,856円となった。交雑牛去勢はB4が前月比120円安の1,600円、B3が同228円安の1,356円、B2が同61円安の1,196円となり、和牛、交雑牛とも年初から弱含みの相場となった。年末在庫が残る中、末端需要の低迷で引き合いが弱まり、月を通じて軟調な相場動向となった。

和牛去勢 日別相場表(1月)



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,760円	95.7%	93.8%
A4 2,379円	92.2%	88.9%
A3 2,078円	87.5%	85.3%
A2 1,856円	86.6%	87.6%

交雑去勢 日別相場表(1月)



交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,600円	89.2%	87.9%
B3 1,356円	82.4%	85.6%
B2 1,196円	81.3%	95.1%

乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 上場なし		
B2 983円	101.4%	95.3%

<2月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による2月の出荷予測頭数は、全体で前年比2.7%減の7万5,100頭と予測している。品種別にみると和牛は1.1%減の3万1,000頭、交雑種は3.2%増の1万8,000頭、乳用種は5.5%減の2万6,100頭としている。家畜改良センターの個体識別データベースによる今年上半年の3畜種の出荷動向予測では、黒毛和種は繁殖雌牛の増頭の効果で前年同期よりも1~2%程度の増加が見込まれ、昨年増頭した交雑は前年並み、乳用種は7%前後の減少が予測される。3畜種合計では0.7%の微減で推移すると予測している。

東京食肉市場の2月のと畜頭数は6,500頭を予定している。

<2月の牛枝肉相場見通し>

近年、年明けの牛肉販売状況は悪い状況が続いている。例年、2月は消費低迷の時期でもあり、また、韓国での平昌オリンピックが開催されるが、大きく需給を刺激する要因は少なく相場は弱基調で推移か。同じ等級でも品質の良いものと劣るもので、引き合いと価格差が大きく生じる相場が続くと予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,700 ~ 2,800	B4	1,550 ~ 1,650
A4	2,300 ~ 2,400	B3	1,300 ~ 1,400
A3	2,000 ~ 2,100	B2	1,150 ~ 1,250
A2	1,800 ~ 1,900		
乳牛去勢			
B3	1,100 ~ 1,150		
B2	900 ~ 1,000		

<2月の牛肉輸入量予測>

財務省の貿易統計によると、17年12月の輸入牛肉通関量実績は、前年同月比4.2%増の4万6,959tとなった。このうち、チルドは2万3,409t(1.4%増)となり、フローズンが2万3,549t(7.1%増)となった。チルド・フローズンともに昨対増となり、対前月でも増加している。年間の累計輸入量は57万3,000t(13.9%増)と1割強も増加し、過去5年では最多となっている。とくにフローズンは一部SG発動しながら、年間では30万7,000t(12.0%増)となっている。

農畜産業振興機構の予測による2月の牛肉輸入数量は、前年比2.2%減の3万9,700tと予測。チルドは、主に出荷頭数の増加を背景に米国産の増加が見込まれ、15.6%増の1万9,600t。フローズンは、14.7%減の2万200t前後を予測している。

輸入牛肉通関量		12月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	10,970	10,525	104.2%
	米国	11,423	11,515	99.2%
	その他	1,016	1,035	98.2%
	合計	23,409	23,075	101.4%
フローズン	豪州	14,782	14,330	103.2%
	米国	7,029	5,841	120.3%
	その他	1,738	1,807	96.2%
	合計	23,549	21,978	107.1%

単位：t

出典：食肉速報

小動物事業部

食肉流通統計によると、12月の全国と畜頭数は145万7,123頭(前年同月比98.3%)となり前年に比べ減少した。

また、12月分の豚肉通関実績は、総量で8万3,199t(前年同月比113%)と前年同月から2ケタ増となった。うちチルドが3万7,069t(同117.4%)で内訳は、米国が1万9,406t(同109.2%)、カナダは1万6,703t(同130%)、メキシコが956t(同100.1%)となった。フローズンは4万6,129t(同109.7%)で内訳は、デンマークが9,168t(同92.3%)、スペインが9,581t(同147%)、メキシコが6,871t(同126.5%)、米国が4,101t(同98.6%)、カナダが3,334t(同75.4%)となった。

<1月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
6日	-	516	484	1,259
10日	73,000	538	488	1,256
11日	72,000	498	448	1,129
12日	71,100	494	459	1,088

上旬の全国と畜頭数は1日あたり7万2,033頭と前年を下回る頭数となり、当市場においては平均1,183頭であった。

年明けも昨年末から荷動きの鈍い状況が続いており、特にロース、カタロースのロイン系は引き合いが弱く、バラの荷動きは堅調。学校給食の再開もあってウデやモモなどのスソ物については徐々に荷動きは良化傾向。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
15日	68,300	475	456	944
16日	70,400	490	457	968
17日	68,600	494	469	832
18日	69,600	484	470	853
19日	67,100	498	464	898
22日	67,200	481	450	884
23日	66,800	481	462	795

中旬の全国と畜頭数は1日あたり6万9,575頭と前年をやや下回った。

当市場においては平均882頭と前年を下回った。

枝肉上物相場は475~494円の相場となり、全体的に荷動きは鈍く相場は軟調な展開となった。

22日の降雪で量販店の集客にも影響があり、さらに野菜の価格高騰により鍋物需要が不振となり、国産、チルドともにスライス商材の荷動きが落ち込んでいる。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	65,200	510	473	701
25日	68,300	512	487	579
26日	66,400	496	462	911
29日	64,800	505	469	751
30日	66,700	502	468	934
31日	65,600	516	482	817

下旬の全国と畜頭数は6万6,166頭と前年を上回った。

量販店などでは本格的な受験シーズンを迎えて、とんかつ需要でロイン系の動きが良化しており、ヒレとロースの特売を組むケースも増えている。

全国と畜頭数は6万頭台で落ち着いている状況が続く、相場は500円前後でのもちあいとなった。

<2月の豚枝肉相場見通し>

農水省による2月の全国と畜頭数は、131万頭(前年同月比100%)と予測しており、一日当たりの頭数は約6万8,947頭(19日稼働)と見込んでいる。当市場の1月の集荷予定頭数は1万6,150頭となっており、一日当たりでは約850頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構によると2月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万2,800t(前年同月比106.2%)の予測となっている。内訳はチルドが3万1,000t(同104.6%)、フローズンは4万1,800t(同107.5%)の予測である。

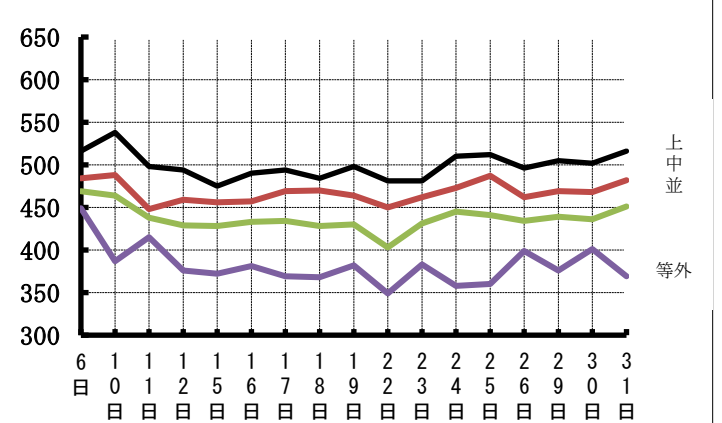
また、11月の豚肉需給量は、供給面で生産量が8万538t(同100.6%)、輸入量が8万5,202t(同111.6%)、合計で16万5,740t(同106%)。一方、推定出回り量は、国産品7万9,723t(同98%)、輸入品8万3,340t(同112.1%)とハムソーセージ生産量が大幅に増加したことで輸入品の出回り量が増加し、合計で16万3,063t(同104.7%)となった。この結果、推定期末在庫は国産品1万5,622t(同96.6%)と、輸入品15万4,001t(同104%)、合計16万9,623t(同103.3%)となった。

全国的な寒波により厳しい寒さが続いている。それにより出荷への影響があり、締まった需給となっている。一部では大雪の為輸送が出来ず、出荷を見送るケースもあった。

1月は年末年始の消費疲れもあり、荷動きは鈍い状況が続いた。2月は大きなイベントもなく荷動きは引き続きカタやモモなどのスソ物中心に動くことが予想される。

1月の加重平均は上物価格で480円前後、中物価格は450円前後と予測する。

豚 日別相場表(1月)



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>